

科目名 (英文表記)	統合科目Ⅲ (グローバルマネジメント) (Integrated Subjects Ⅲ)		
科目区分	発展科目	単位数	2 単位
担当教員名	李 濟民	ナンバリング	MBA_E_IS 6331
研究室番号	507	研究室電話番号	27-5338
Eメール・アドレス	ri@res.otaru-uc.ac.jp		
<b>授業の内容及び方法：</b> 次頁以降に記載			
<b>授業の目的：</b> グローバル化に対応しながら持続的な競争力を発揮していくためには、競合他社と比べて革新性や社会性の視点からユニークな経営戦略を樹立し、それを実行していくための組織力が必要になる。そこで、欧米日を代表する世界的な「勝ち組企業」が展開する革新的な経営戦略や組織構造の再編成等をできるだけ多くの事例を通して、体系的に学ぶことを本科目の目的とする。 具体的な到達目標としては、 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> トランスナショナル・マネジメントについての最新理論を原文で読解する</li> <li><input type="checkbox"/> 経営学の最新用語を英語と日本語の両方で理解する</li> <li><input type="checkbox"/> 世界的な企業の事例を各モジュール必ず一つ取り上げてグループワークを通して議論することで、日本企業のグローバル対応について理解を深める</li> </ul>			
<b>使用教材：</b> Bartlett and Beamish, <b>Transnational Management: Text and Cases in Cross-Border Management</b> (第8版、英語)をメインテキストとし、必要に応じて資料を配付する。			
<b>成績評価の方法：</b> 出席：10% 事前・事後課題：30% 授業への参加（発表、ディスカッションなど）：30% 小テスト2回：30%			
<b>履修上の注意事項：</b> 特になし			

## 授業の内容及び方法

<b>モジュール 1</b>	グローバル経営とそのメンタリティ
<b>事前準備</b>	メインテキストの第1章とケース (Jollibee Foods Corporation) を読んで理解する。特に、Jollibeeの海外進出に関する3つの懸案事項 (アメリカ本土への進出、香港での基盤強化、パプアニューギニアへの進出について自分の意見をまとめる)
<b>第 1 時 限</b>	グローバリゼーションの明暗
	民族—国家の影響力の衰退、世界的な規制緩和、高度情報化とIT技術などによって急激に進展されるグローバリゼーションの明暗を下のキーワードで考える。 冷戦の終息 国際金融市場の活性化 固有文化と民族アイデンティティ 一人勝ち現象と所得格差 (授業全般のオリエンテーション)
<b>第 2 時 限</b>	グローバル化の理由とそのメンタリティ
	市場拡大、原材料確保、生産効率 規模の経済、PLCの短縮化、R&Dの巨額化 インターナショナル・メンタリティ マルチナショナル・メンタリティ グローバル・メンタリティ トランスナショナル・メンタリティ (Jollibee社のケース)
<b>復 習</b>	manabaを通じてQ&Aを実施する。

<b>モジュール 2</b>	環境の変化とトレードオフ関係にある経営目標の同時達成
<b>事前準備</b>	メインテキストの第2章とケース(未定)を読んで理解する。
<b>第 3 時 限</b>	企業を取り巻く環境の変化
	グローバル調整、地域別ローカル対応、世界的な学習または知識移転の3つの経営指針に対するそれぞれの必然性やその経済的動機について学習する。
<b>第 4 時 限</b>	経営目標の多次元化とその必要性
	グローバル、マルチナショナル、インターナショナル産業とトランスナショナルな対応。 グローバル統合に向かう要因と現地市場への適応力という相矛盾する経営目標を同時に追求し、高いレベルで実施していくことの重要性を学ぶ。(ケースのディスカッション)
<b>復 習</b>	manabaを通じてQ&Aを実施する。

<b>モジュール 3</b> グローバル戦略能力の構築	
<b>事前準備</b>	メインテキストの第3章とケースを読んで理解する。
<b>第5時限</b>	グローバル競争優位 コスト効率性、柔軟性、世界的学習というトランスナショナル経営の多次元目標を国ごとの違い、規模の経済、範囲の経済という経営手段をいかにマッピングさせるかについて学ぶ。
<b>第6時限</b>	トランスナショナル経営戦略とその戦略課題 世界リーダー、チャレンジャー、ニッチャーのそれぞれの立場から、トランスナショナル経営に要求される分散、相互依存、高度専門性をいかに経営組織の中に植え付けるかを学習する。 (第3章のケース)  *授業の最後に1回目のテストを実施
<b>復習</b>	manabaを通じてQ&Aを実施する。

<b>モジュール 4</b> 調整とコントロールの組織課題	
<b>事前準備</b>	メインテキストの第4章とケースを読んで理解する。
<b>第7時限</b>	マトリックス組織を超えて 真のトランスナショナル組織を造るためには、単なるマトリックス組織を作るだけでは不十分で、まず資産や経営資源の分散と、役割や責任の割り当てなど組織構造を作り出し（解剖学）、次にこの骨格の上に組織の血液（すなわち情報など）の流れという組織上のプロセスや関係（生理学）をつくり、最後に人間の心と精神に与える企業文化や価値観、ビジョンの共有（心理学）という接着剤が組織運営の基本となる。
<b>第8時限</b>	統合ネットワーク組織 権力分散型連合組織であるヨーロッパ企業と、調整型連合組織を取り入れるアメリカ企業、中央集中方式を採用する日本企業の3者の長所を最大限生かし、急速に変化するグローバル経営環境に対応するための統合グローバル組織の真髓について学習する。 (第4章のケース)
<b>復習</b>	manabaを通じてQ&Aを実施する。 関連する資料や論文の輪読

<b>モジュール 5</b> 知の経営とその世界的移転	
<b>事前準備</b>	メインテキストの第5章とケースを読んで理解する。
<b>第9時限</b>	革新プロセス 集中型イノベーションを効率化する 分散型イノベーションを効率化する トランスナショナル学習プロセス ① 調和から差別化へ ② 依存ないし独立から相互依存関係へ ③ 画一的なコントロールから多様な調整へ
<b>第10時限</b>	ナレッジ・マネジメント 知の経営と競争優位 ナレッジ経営の要件 (第5章のケース)
<b>復習</b>	manabaを通じてQ&Aを実施する。

<b>モジュール 6</b> アライアンス戦略	
<b>事前準備</b>	メインテキストの第6章とケースを読んで理解する。
<b>第11時限</b>	戦略的提携の動機とそのリスク 企業が有する経営資源は無限ではない。自社が持っているコアコンピタンスを外部のものとうまく結合する事によって、莫大なR&Dコストやリスクを分散することができる。そこで、昨今業界のライバル企業同士が国際的な戦略的経営を結ぶことになる。ここではその動機とリスクを体系的に分析し、その経済合理性を学習する。
<b>第12時限</b>	競争と協力のマネジメント どのようにしたらトレードオフ関係にある競争と協力をうまくマネジメントに取り入れて、競争力を向上できるかについての組織づくりや管理について学ぶ。(ケースは未定) (第6章のケース) *授業の最後に2回目のテストを実施
<b>復習</b>	manabaを通じてQ&Aを実施する。 関連する資料や論文の輪読

<b>モジュール 7</b> トランスナショナル・マネジメントの役割	
<b>事前準備</b>	メインテキストの第7章とケースを読んで理解する。
<b>第13時限</b>	トランスナショナル・マネジメントの役割（1）
	グローバル事業部経営 世界的なファンクショナル経営 現地子会社のカントリーマネジャーの役割
<b>第14時限</b>	トランスナショナル・マネジメントの役割（2）
	最高経営者の役割 ① 方向性と目的を提示 ② 経営資源の配分と調整（権限を委譲し、資源・専門知識の面でサポート） ③ 持続的なリニューアル （第7章のケース）
<b>復習</b>	manabaを通じてQ&Aを実施する。

<b>モジュール 8</b> トランスナショナルの未来	
<b>事前準備</b>	メインテキストの第8章を読んで理解する。
<b>第15時限</b>	トランスナショナルのグローバル役割
	搾取型MNE 取引型MNE 反応方MNE 変容方MNE
<b>復習</b>	manabaを通じてQ&Aを実施する。